



ほけんだより

令和8年8月31日
若草保育園

今年の8月は、日中晴れ間が多く、屋外でのプールや水遊びが例年よりもたくさんできたように思います。子ども達はすっかり水遊びになれて、顔にかかることも気にせず夢中に遊び込めるようになりました。

また、お盆期間も影響してか感染症の報告が多く、コロナウイルス 8 名、手足口病 5 名、アデノウイルス 1 名、クループ症候群 1 名とありました。現在は落ち着いていますが、引き続き基本的な感染症予防対策に努めていきましょう。

つめの伸びすぎ・切りすぎはトラブルのもと

長すぎるとひっかきやすい

子どもの皮膚は薄いので、つめが伸びていると肌をかいたときにひっかいて傷になることがあります。また、つめが衣類などに引っかかりやすくなります。1週間に1回、つめをチェックして整えてあげましょう。



短すぎると巻きづめになりやすい

つめを短く、丸く切りすぎると、つめの両端が皮膚に食い込む「巻きづめ」になりやすくなります。

つめの白い部分を少し残して、まっすぐに切りましょう。角は切り落とすのではなく、やすりで丸く整えます。



0～3歳に多い**窒息**！ 対策、していますか？



窒息で亡くなった人を年齢別に見ると、0～3歳の子どもが85%を占めています。特に食事中、睡眠中、遊んでいるときの窒息が多いです。注意する点を知っておきましょう。

食事中

小さく切って食べさせているか
かむ力、飲み込む力に合わせた大きさに調整します。

よくかむよう声をかけているか
かむことで飲み込みやすくなります。

正しい姿勢で食べさせているか
寝転ぶなどの姿勢は、のどにつまらせる危険があります。

年上のきょうだいに小さな子どもの世話をさせていないか
きょうだいあげたもので窒息することがあります。

睡眠中

寝具がやわらかすぎないか
顔がマットに沈み、呼吸ができなくなります。

ベッドの周辺にすきまがないか
顔がはさまる危険があります。

スペースは十分あるか
ふとんやクッション、人形などが顔にかぶさって窒息することもあります。かけふとんは軽いものを使い、寝具以外のものは周りに置かないようにしましょう。

遊ぶとき

このくらい大きさなら、大丈夫とっていないか

子どもは直径6～20mmのものでも窒息する危険があります。ビー玉・おはじき・ビーズ・ブロックなどの小さなものは、子どもの手の届かないところに保管しましょう。

